

オンライン付録

第 3 章

政権担当能力：なぜ自民党は強いのか？

小野弾

政党の政権担当能力評価を従属変数とする回帰分析

従属変数は、これまで見た各政党の政権担当能力評価である。

独立変数はここまで確認した変数となる。1 つは、回答者と各政党のイデオロギーの距離と、各政党が回答者にとって「右側」に位置するかどうかの、交差項をとったものである。イデオロギー距離は、回答者のイデオロギー位置の認識と、各政党のイデオロギー位置の認識との差分の絶対値をとることで求めることができる。さらに、各政党が回答者より右に位置するかどうかの二値変数によってイデオロギー距離を条件付けることで(交差項と言われる)、「右に離れる」ことと「左に離れる」ことに非対称な効果があれば、それを求めることができる。

もうひとつの独立変数は経済評価となる。世間の景気の評価の変数を投入した。そのほか、コントロールする変数として世代(18-34 歳(ベースライン)、35-49 歳、50-64 歳、65 歳以上の 4 区分)、性別、学歴(大卒以上かどうか)、世帯年収(0-200 万円(ベースライン)、200-400 万円、400-600 万円、600-800 万円、800-1000 万円、1000 万円以上、回答なし)を投入している。

経済評価についてみると、図 3-4 と同様に、世間の景気の評価は自民党の評価に対して強い正の関係、立憲民主党への評価に対して弱い正の関係があるが、国民民主党の評価とか関係がみられない。世論調査においては回答者が景気にネガティブな評価を行う傾向が強いことを考えると、世間の不景気感が自民党・立憲民主党へのマイナス評価に関連している。その一方、これらは国民民主党の評価とは関連していない。経済状況の悪化に伴ってこれらの既存勢力の与野党への不信が高まった一方、相対的に中道・新興勢力の国民民主党への期待が高まっている可能性がある。

その他の変数に関して簡単に見ておくと、世代による評価のギャップは大きい。自民党は高齢者ほど評価が高い(若年層ほど評価が低い)のに対して、国民民主党はその反対に若年層ほど評価が高いという傾向が明確である。考察はまたの機会となるが、今後の研究課題として世代は重要となるかもしれない。

表 政党の政権担当能力評価を従属変数とする回帰分析

	自民党	立憲民主党	国民民主党
(Intercept)	2.80*** (0.22)	3.41*** (0.21)	5.09*** (0.22)
イデオロギー距離	-0.31*** (0.03)	-0.33*** (0.02)	-0.25*** (0.03)
イデオロギー:自分より右	0.15 (0.13)	0.36* (0.15)	-0.06 (0.14)
イデオロギー距離×自分より右	0.12** (0.04)	0.12* (0.05)	0.07 (0.05)
景気評価	0.41*** (0.04)	0.14*** (0.03)	0.04 (0.04)
年齢:35-49歳	0.09 (0.15)	0.04 (0.15)	-0.57*** (0.16)
年齢:50-64歳	0.59*** (0.14)	-0.04 (0.14)	-1.02*** (0.15)
年齢:65歳以上	0.90*** (0.14)	0.29* (0.14)	-1.11*** (0.15)
性別:女性	-0.16 (0.09)	0.18* (0.09)	0.14 (0.09)
学歴:大卒以上	0.10 (0.09)	-0.09 (0.09)	-0.14 (0.10)
世帯年収:200-400万	0.27 (0.15)	0.23 (0.14)	-0.15 (0.16)
世帯年収:400-600万	0.33* (0.16)	0.22 (0.15)	-0.28 (0.17)
世帯年収:600-800万	0.13 (0.17)	-0.02 (0.16)	-0.16 (0.18)
世帯年収:800-1000万	0.34 (0.19)	0.13 (0.18)	0.30 (0.20)
世帯年収:1000万以上	0.26 (0.19)	-0.24 (0.18)	-0.05 (0.20)
世帯年収:NA	0.08 (0.18)	0.02 (0.17)	-0.18 (0.19)
R ²	0.32	0.34	0.15
Adj. R ²	0.31	0.33	0.13
Num. obs.	1150	1094	1051

*** $p < 0.001$; ** $p < 0.01$; * $p < 0.05$